



新町古町実証実験 五感散歩

NEWS RELEASE

2021年春、熊本市で歴史的建造物を利活用した実証実験が行われました。

コンセプトは”五感散歩”。長期的な視点で「感性が刺激され、つい歩いてみたくなるような、小さなデザインが溢れるまちづくり」を目指すプロジェクトです。熊本地震から5年の節目を迎え、復興に向けて歩み続ける熊本を象徴する取り組み、また知られざる魅力を持つ城下町を、ぜひ貴社媒体にてご紹介いただきたくお知らせさせていただきます。

歴史ある城下町 新町古町を舞台とする実証実験「五感散歩」とは？

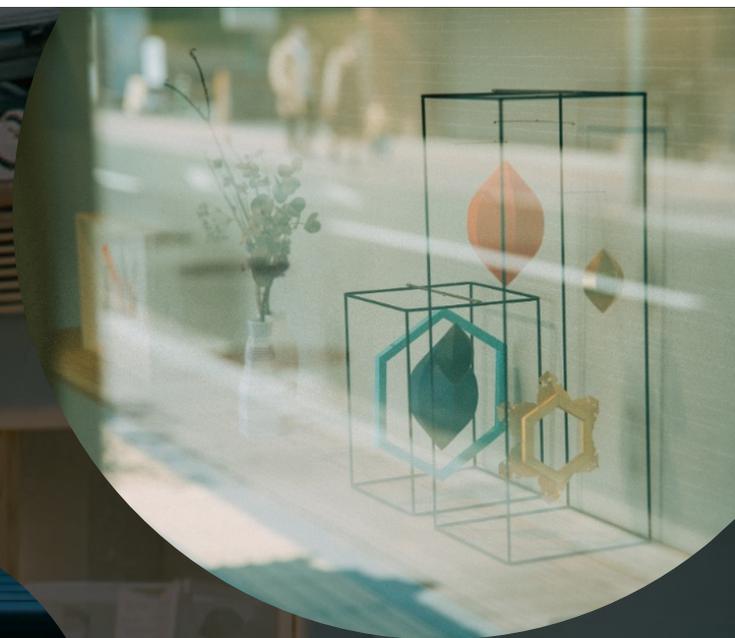
熊本市（市長：大西一史）は、令和3年3月21日～4月11日にかけて、歴史的風致維持向上計画（くまもと歴史まちづくり計画）が国から認定を受けたことを機に、歴史的建造物等を利活用する実証実験を行いました。実験は、熊本城の城下町として発展してきた新町古町地区の一画・唐人町通り（全長約240m）周辺で実施され、町屋の活用実験「マドカイ」 テナント誘致の実験「ハイカラ百貨店」 駐車場の活用実験「町屋蚤の市」 夜間景観の実験「明八橋と桜のライトアップ」 まち歩き実験「古町小町とお散歩」等に取り組みました。また、一連のプロセスを通じて所有者、テナント、来訪者等に働きかけ、今後の利活用を維持していくための持続可能な仕組みづくりを実践・検証。熊本地震から5年を経て、熊本市政のスローガン「500年、城と生きる町へ。」を体現すべく、熊本城域、中心商店街、JR 熊本駅周辺の広域的な位置づけからも城下町エリアの活性化を目指しています。

町屋の店先を活用した 無人店舗&景観向上実験

「マドカイ」

町屋のファサード（建物正面部分）を借り上げ、特設のショーウィンドウを設置。陳列した商品を QRコードで表示し、オンラインでのキャッシュレス販売につなげる試み。省スペースかつ無人という貸主・借主の負担を軽減するニューノーマル時代の店舗形態を検証しました。また、夜間もライトアップを行うことで、歴史的建造物を生かした新たな夜間景観の創出を狙いました。SNSの反響、オンラインショップへのアクセスも良好で、今後も出店事業者を変えながら継続して運用することが決定しました。

2021 3/21～現在も運営中





美術館のような歴史的建造物に 熊本のものづくりを集めた 「ハイカラ百貨店」

大正8年、第一銀行熊本支店として竣工した鉄筋2階建の建造物（現在は空調メーカーのショールーム）を会場に、熊本在住のアーティスト・作り手による期間限定のポップアップショップをオープン。今後のマッチングに活かすための、テナントと地域のネットワーク形成の試みを行いました。営業スタイルは〈マドカイ〉方式を利用した無人販売。普段は足を踏み入れる機会のない美術館のような空間、暮らしを彩る良質なアイテムが好評を博しました。

2021 3/27～4/4開催



駐車場を利用して 町屋活用の課題を解決 「町屋 青空蚤の市」

休診日の民間病院の駐車場を有効利用し、蚤の市を開催。町屋等の利活用で課題となっている家財処分に対して、それらを流通し解決させることを目的として行いました。出品された商品は、箆笥や机といった大型家具から、器、絵画、インテリア雑貨等バラエティに富んだラインナップ。コロナ禍での開催でもあり、大々的な告知やプロモーションを行うことは叶いませんでしたが、アンティーク好きの一般客や飲食店経営者など、多くの人々で賑わいを見せました。

2021 4/11開催



歩いて楽しい町並みを体感

「古町小町とお散歩」

「お散歩をまちの風景に」をテーマに、唐人町通りを地域ガイド「古町小町」がご案内。ガイドブックには載っていないコアな魅力、当地の歴史や文化と今の暮らしのつながりを感じられるツアーを催行しました。また、当日は参加者数名に着物で参加いただき、城下町らしい雰囲気づくりの一端を担っていただきました。

2021 4/11開催

新たな夜間景観をつくる

「明八橋と桜ライトアップ」

日本橋や通潤橋を手掛けた名工・橋本勘五郎により明治8年に架設され、今もなお地域住民に愛され続ける明八橋。桜の木などを含む周辺をライトアップし、まちの名所として改めて景観の魅力伝えました。

2021 3/21～4/11開催



五感散歩



五感散歩古町

チャンネル登録者数 37人

チャンネル登録

ホーム

動画

再生リスト

チャンネル

アップロード動画

▶ すべて再生



0:36

古町実証実験「五感散歩」15秒CM | creator by ナ...

1回視聴・1か月前



新町古町実証実験「五感散歩」15秒CM | creator by ナ...

1599回視聴

15秒×15人のクリエイターが発信 古町の魅力再発見CM動画

映画監督や映像作家をはじめ、画家やグラフィックデザイナーなど熊本県内のクリエイター15名を起用し、それぞれがプロジェクトの趣旨に基づいた15秒のCM動画を制作。SNS等で発信し、広報活動を行いました。目指したのは、単なるイベント告知に留まらない長期的な地域のブランドアップ。さまざまな切り口で地域の魅力を広報する手法検証を行いました。

500年、城と生きる町へ。加藤清正が築いた古町の今昔。

古町ってどんなところ？

熊本は2021年春、熊本地震から5年目の節目を迎えました。併せて、長い復旧の過程にある熊本城も5年ぶりの天守閣公開を控え、4月23日にはJR熊本駅に「アミュプラザくまもと」がオープンを迎えるなど、新しい一歩を踏み出し、活気を取り戻しつつあります。そんな熊本で今、注目を集めているのが「古町」と呼ばれる城下町エリア。加藤清正が熊本城築城と同時に整備し、厳重な防衛機能と町人街の賑わいを両立した巧みな町づくりは、人気テレビ番組「ブラタモリ」でも紹介され話題を呼びました。

発展と衰退、そして価値の再発見。

明治～大正期は「花の唐人町」と称され、九州有数の発展を見せた古町エリアも、高度経済成長期と反比例するように少しずつ衰退。一軒、また一軒と歴史ある町屋も取り壊されていきましたが、近年では「遺された貴重な景観を大切にしよう」と見直す流れも生まれ、空調メーカー「PSオレンジリ」や、九州内外からファンが訪れるナチュラルライフスタイルショップ「ピュアリィ」、若い世代に支持を得る焙煎所「珈琲回廊」、フレンチレストラン、カフェ、アパレルショップなど、町屋を活用し、わざわざ訪れたいくなる実力店が軒を連ねています。



INFOMATION

一般社団法人KIMOIRIDONとは？

地元の有志団体「新町・古町町屋研究会」として10年以上に亘って活動を続けてきましたが、さらに、責任ある活動を展開するため町屋研究会とは別に、2020年秋に一般社団法人KIMOIRIDONを設立しました。地域にある不動産を有効活用する仕組みづくりを通して、連鎖的かつ持続的な地域の活性化を目指し、地域住民の生活の向上と地域文化の継承・発展に寄与することに取り組んでいます。



お問い合わせ先

一般社団法人 KIMOIRIDON

MAIL : contact@kimoiridon.com